

第3回 元町周辺まちづくり研究会 次 第

日時 令和7年6月18日（水）15:00～
場所 兵庫県第3号館7階 参与員室

1 開会

2 議題

- （1）新庁舎等整備にかかる基本構想骨子案【兵庫県 県庁舎整備プロジェクト外室】
- （2）元町駅周辺のリニューアルプランの検討に着手【神戸市 都心再整備本部】

3 意見交換

4 閉会

元町周辺まちづくり研究会メンバー

< 本体 >

機関名	職 名	氏 名	出欠
兵庫県	理事	木村 晶子	出席
	総務部長	有田 一成	出席
	総務部 県庁舎整備プロジェクト室長	松井 雅伸	出席
	まちづくり部長	松浦 純	出席
神戸市	理事 兼 都市局 都心再整備本部長	中原 信	出席
	企画調整局長	西尾 秀樹	出席
	建設局長	小松 恵一	出席

※敬称略

【参考】ワーキンググループ（バリアフリー・回遊性）

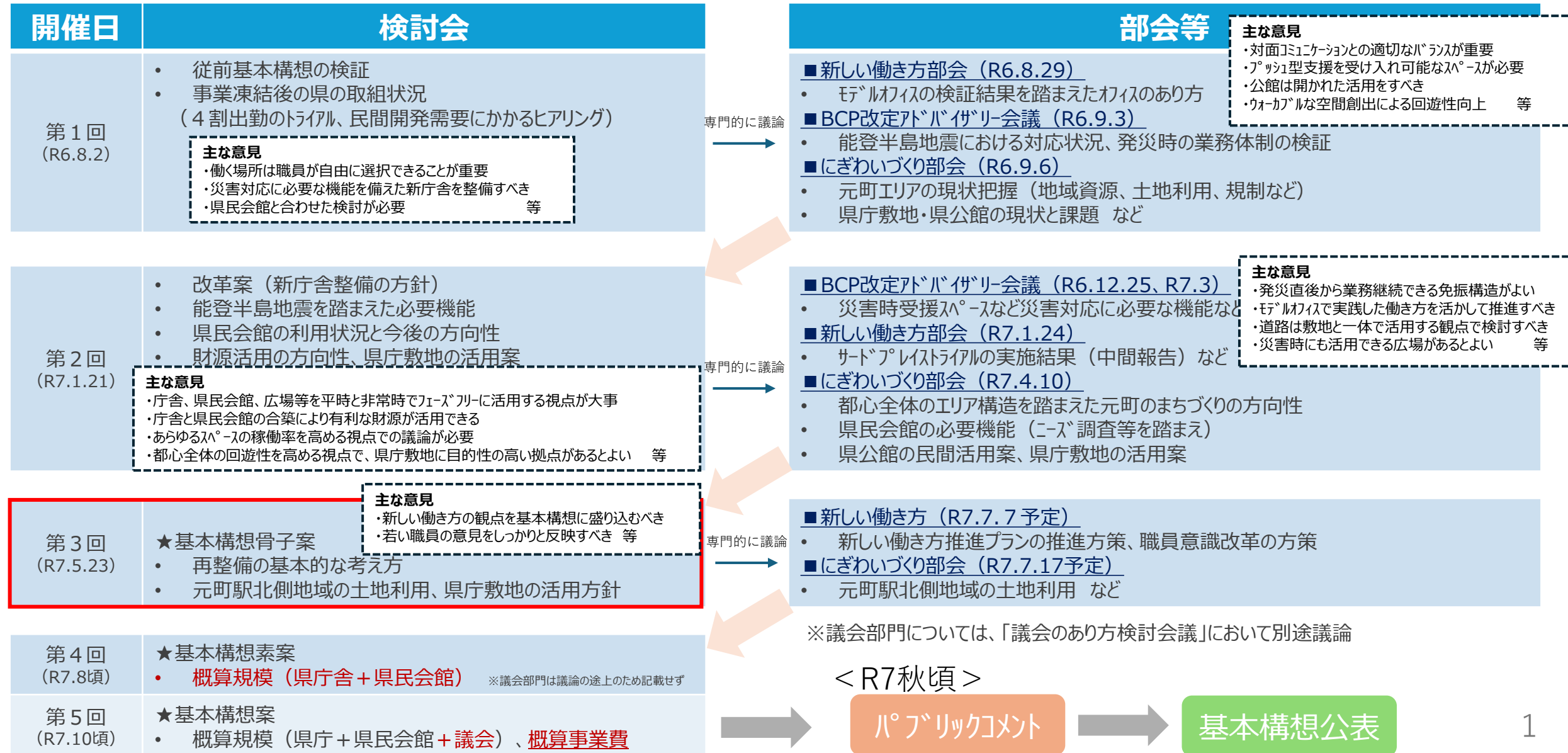
機関名	職 名
兵庫県	総務部 県庁舎整備プロジェクト室 新庁舎企画課長
	まちづくり部 都市政策課長
神戸市	建設局 道路計画課長
	都市局 都心再整備本部 都心三宮再整備担当部長
	都市局 都心再整備本部 都心交通担当課長
	都市局 都心再整備本部 都心整備担当課長
JR西日本	地域まちづくり本部 沿線まちづくり 課長
	近畿統括本部 経営企画部 企画戦略 部長
	近畿統括本部 経営企画部 駅・まちづくり 課長
	近畿統括本部 兵庫支社 副支社長

(1) 新庁舎整備等にかかる基本構想骨子案

【兵庫県 県庁舎整備プロジェクト室】

県庁舎のあり方等に関する検討会の進め方

検討会（第3回）では、これまでの議論をもとに、庁舎整備やまちづくりの基本的な考え方について基本構想骨子案としてとりまとめ。
追加すべき要素や資料構成などを意見交換を行い、それを踏まえて、次回検討会において基本構想素案を作成。



基本構想骨子案 ～目 次～

大 項 目	小 項 目	想 定 内 容
I 基本構想策定の経緯		従前の県庁舎等再整備事業の経緯、働き方改革・災害対応の視点を踏まえた見直し、災害対応
II 県庁舎周辺の概要	周辺地域の成り立ち	歴史、地域資源
	県庁舎・県民会館の概要	現施設の延床面積、敷地面積、構造 等
III 県庁舎及び周辺地域の課題	県庁舎・県有施設の耐震安全性等	耐震診断結果（追加実施した時刻歴応答解析結果（県民会館含む）も追記）
	元町駅北側地域のまちづくり	南北の高低差、回遊性、JR元町駅のバリアフリー化
IV 社会経済情勢の変化	コロナ禍を経た働き方の変化	新しい働き方推進プラン、モデルオフィス検証結果、民間オフィスの需要の変化
	建設業を取り巻く環境変化	建設費高騰を踏まえた対応
	県庁周辺エリアの開発需要	R4年民間ヒアリング結果、検討会意見、神戸都心エリアの現状と将来像
V 再整備の方向性	県庁舎の安全性・利便性・快適性の確保	現庁舎の課題（老朽化、バリアフリー化、執務環境等）に対応する必要機能
	災害対応拠点として必要な機能の確保	能登半島地震の事例を踏まえた必要機能
	芸術文化活動・発信の場の確保	旧県民会館の利用状況や将来ニーズに応じた必要機能
	元北(トキタ)地域のまちづくりの方向性	神戸都心全体のまちづくりビジョン（エリア構造・回遊動線など）を踏まえた元北(トキタ)地域のあり方・県庁敷地の活用コンセプト
VI 基本的な考え方	県庁舎・県民会館の基本方針	基本方針（災害時の対応強化やカーボンニュートラルの推進などの考え方）
	にぎわい創出の基本方針	基本方針（元北(トキタ)エリアの土地利用、県庁敷地の活用方針案 など）
	スケジュール・考慮すべき事項	整備スケジュール、県民意見の反映 等
VII 参 考	施設規模、概算事業費、事業手法、財源、新庁舎整備までの暫定的な本庁舎再編	庁舎規模・概算事業費（財源含む）、新庁舎整備までの暫定的な本庁舎再編

※ 社会経済情勢の変化等を踏まえて記載した項目等については、赤字で記載

基本構想骨子案 ～V 再整備の方向性～

4 元北（モトキタ）地域のまちづくりの方向性

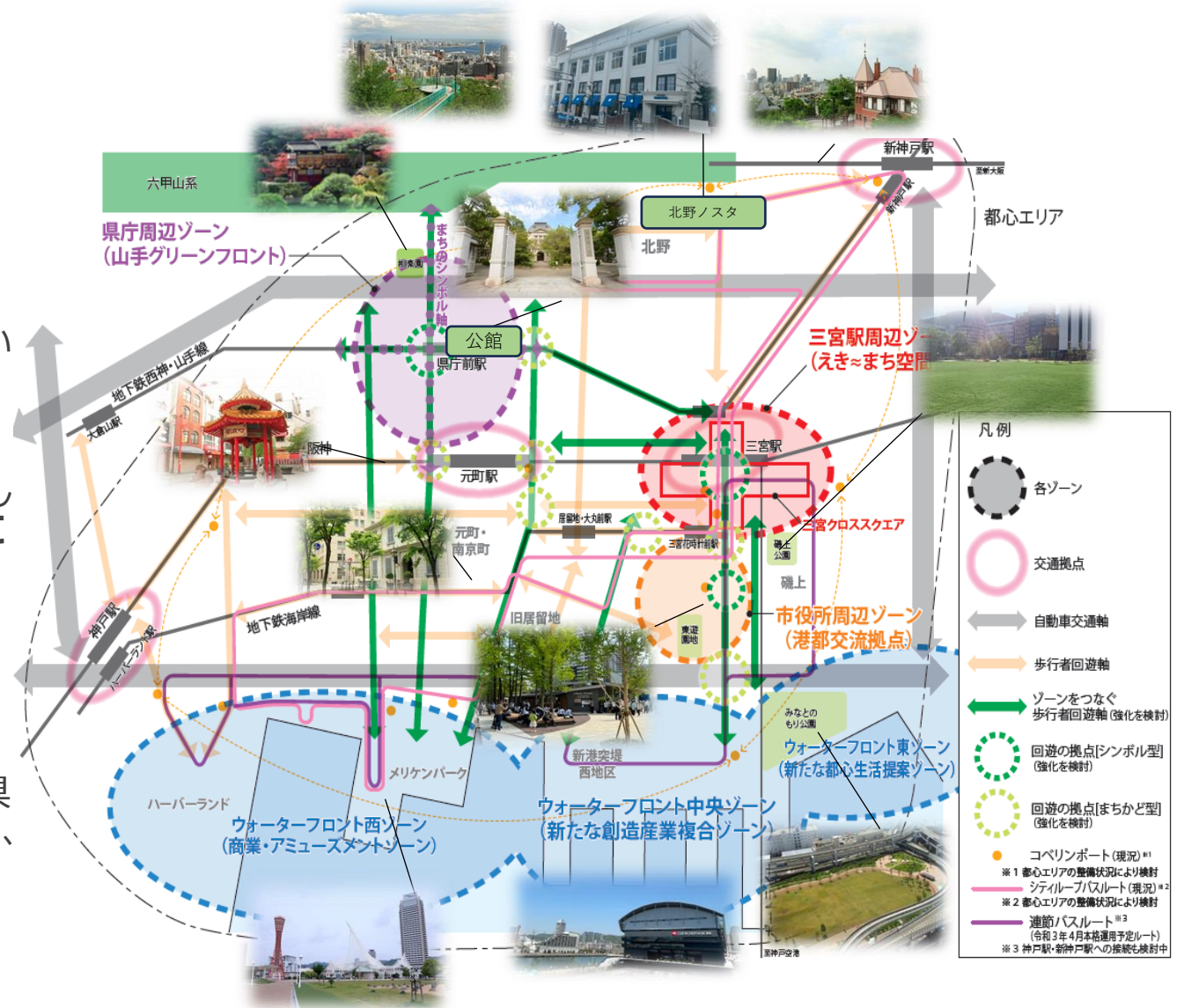
神戸都心エリア全体のまちづくりのビジョンでは、三宮やウォーターフロントにおける都市機能の高度集積や歩行者中心のまちづくりにより、**来街者を呼び込み、都心全体の回遊性を高め、滞在時間の増加を図ることで、神戸全体のまちの活性化・発展**を目指します。

これを踏まえ、元町地域では、歴史に裏打ちされた文化的な佇まいや、個性的で魅力ある賑わいなどが共存する特徴を活かし、**周辺住民と来街者が協調・共存できるまちづくり**を目指します。

さらにその中で、元北（モトキタ）については、六甲山の裾野に位置し豊かな緑あふれる特徴を活かし、**日常と非日常が調和する品格とにぎわいのあるエリア**を目指し、三宮、ウォーターフロント、元町駅南側との回遊性の向上を図っていきます。

■ 県庁周辺に導入する機能

- 元北（モトキタ）エリアのにぎわいづくりのため、県庁周辺には、県行政推進の中核拠点となる県庁舎の再整備による「行政機能」、幅広い文化創造の拠点となる「芸術文化機能」に加え、「**にぎわい機能**」を付加することで**拠点性を高めるとともに、都心の各ゾーンを繋ぎ、回遊の中継点となる機能**を目指します。
- 地元神戸市と連携し、緑豊かでウォーカブルな空間の創出による回遊ネットワークの強化を図っていきます。



出典：都心エリアの再整備計画に関する検討会議とりまとめ(神戸市・R3.2月)より抜粋（一部追記）



基本構想骨子案 ～VI 基本的な考え方～

1 県庁舎・県民会館の基本方針

(1) 災害時の対応力強化

- 県及び広域での災害対応の司令塔の役割を担う防災拠点として、南海トラフ地震等に備えた**高い耐震性能と免震構造、業務継続機能**の確保
- 他自治体等からの**プッシュ型支援に対応できるスペース**の確保、災害時等の情報共有・業務連携を意識した施設・フロアの配置

(2) 質の高い行政サービスの提供

- 職員個々の状況に応じてテレワークなど働く場所を選択できる、柔軟で多様な働き方の推進を踏まえ、**希望する全職員が勤務可能な入°-sを確保**
- 質の高い政策立案の実現や、組織改編等に柔軟に対応できるフレキシブルな執務環境の構築
- ペーパーレス化や業務のDX化、ICTツールの活用などの**業務改革の推進を踏まえた執務環境の構築**

(3) 施設規模の適正化・利便性の向上

- 必要機能を確保しつつ整備スケールの適正化を図るため、**フェーズフリーの概念**を取り入れ、**空間の多目的利用によりスペースを合理化**
- 庁舎整備にかかる**実質負担の抑制**を目指し、**庁舎と県民会館の合築などによる有利な財源の活用**や、最適な整備手法を検討
- ユニバーサルデザインの採用と、庁舎等へのアクセスルートのバリアフリー化等を検討
- 適切なセキュリティゾーニング**の設定を行いつつ、県民に開かれた庁舎として情報発信機能などを充実

(4) 兵庫の魅力・芸術文化の発信と交流の拠点

- 幅広い世代の文化活動や芸術鑑賞**をはじめ、**多様な活動と交流の場**の提供
- 県民、行政、議会が一体となってまちの未来を創造するために、協働を育む拠点にふさわしい空間づくり
- 県民会館エントランスホール等を活用した県政情報や兵庫五国の自然、歴史、文化等の多様な魅力の発信

(5) カーボンニュートラルの推進

- 脱炭素化を推進する**再生可能エネルギー**の導入や省エネ化の推進等、**ZEBの導入、県産木材の利用**など環境への負担軽減への取組を実施
- 建設から維持管理までのライフサイクルコストの低減



基本構想骨子案 ～VI 基本的な考え方～

2 にぎわい創出の基本方針

(1) 県庁敷地へのにぎわい機能の導入

- ・ **周辺住民や来街者が憩い、滞留・交流できるにぎわいスポット**の誘致
- ・ 災害時の一時避難スペース、復旧活動の拠点機能を付与した、元北(トキ)エリアの個性を生み出す**都心のグリーンインフラ**の創出
- ・ 庁舎機能等の集約により生じた余剰地については、サウディング型市場調査により民間のニーズやアイデアを調査し、**民間活力による整備**を検討

(2) 県公館の民間活用によるにぎわい創出

- ・ 県公館の持つ文化的価値や建築美、都市景観を最大限に活かし、**公民連携による県民に開かれた利活用**によりにぎわいを創出
- ・ 館内は従来からの迎賓館機能としての利用を維持しつつ、週末を中心に多様な主体との公民連携による多目的利用を図る
- ・ 館外の別棟、東庭園の非日常空間等の活用アイデアを公募し、**カフェ・レストラン等集客施設**を誘致

(3) ウォーカブルで緑豊かで品格ある都市空間の創出

- ・ **回遊性向上に向けたウォーカブルな空間**の創出や、津波時の避難動線の確保に向け、**JR元町駅西口周辺のバリアフリー化**や、**駅から県庁周辺にかけての動線の円滑化**について、神戸市やJR西日本等と連携しながら検討
- ・ 三宮・トアウエスト方面や、元町駅南側方面などとのにぎわいの連続性を確保
- ・ 六甲山の裾野に位置し、相楽園などの豊かな緑地が点在する特性を活かした**緑豊かな景観の形成**
- ・ 県公館や神戸栄光教会、神戸聖ミカエル教会などの**地域資源と調和**する、歴史に裏打ちされた**品格ある景観の形成**

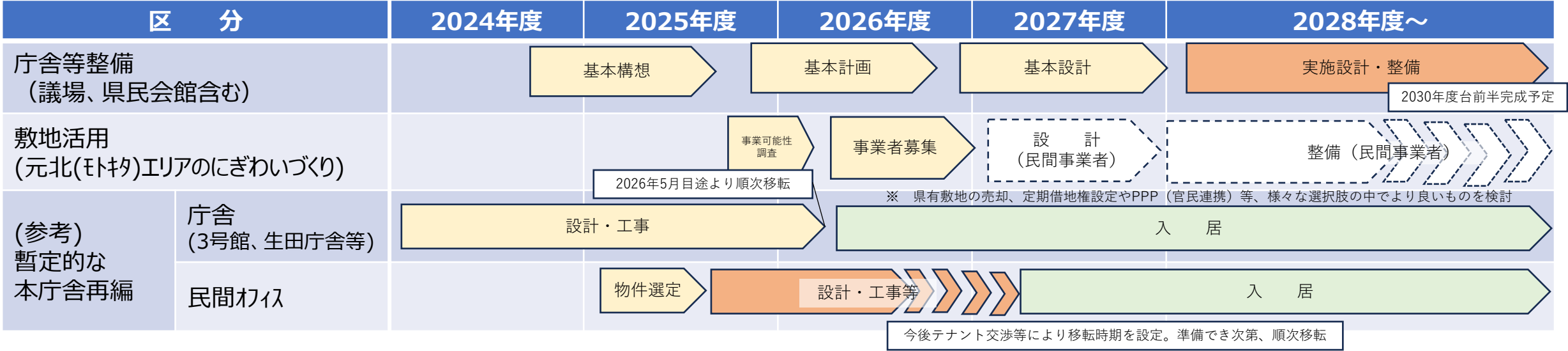
県庁敷地のゾーニング

4

基本構想骨子案 ～Ⅵ 基本的な考え方～

スケジュール

県庁の耐震安全性の確保は喫緊の課題であることから、事業に遅滞が生じないよう、適切なスケジュール管理のもと、関係者と協議・調整を行っていきます。
なお、基本計画策定過程で、工期短縮可能な整備手法・事業費抑制手法（財源等含む）を引き続き検討していきます。



- ◆ 既存建物の撤去時期は、整備手法や暫定的な本庁舎再編による部局の移転状況を踏まえ、基本計画策定過程で決定
- ◆ なお、元町駅西口のバリアフリー化や県庁敷地までの動線の円滑化、回遊性を高めるための周辺道路等の整備については、基本構想で策定した県庁敷地のコンセプトを踏まえ、公共空間の整備権限を有する神戸市や駅所有者であるJR西日本等と協議・調整を行っていく。

県庁舎等の概算規模・事業費

①概算規模 行政部門（3号館を含む）、議会部門、県民会館の合計面積について試算

区 分	現 状	前回構想	見直し後	差 引	面積の見直し内容
行政エリア	75,901㎡	約93,000㎡	第4回検討会において記載予定 (議会エリアは別途、議会のあり方検討会議において検討中)		
議会エリア	10,567㎡	約11,500㎡			
県民会館	16,279㎡	約23,000㎡			
合 計	102,747㎡	約127,500㎡			

②概算事業費

①概算規模決定後、算定

※ なお、当該事業で活用を想定している有利な財源(地方債)は、現行の期限が早いもので令和7年度末までとなっているため、国に対して延長・制度拡充要望等を行っていきます

※ 3号館は現状のまま活用するため、再整備が必要な面積は次のとおり。 約●●㎡（再整備後の規模）－28,307㎡（3号館）＝約●●㎡

(2) 元町駅周辺のリニューアルプランの検討に着手

【神戸市 都心再整備本部】

元町駅周辺のリニューアルプラン検討に着手

元町駅のあゆみ

BE KOBE

1874年(明治7年)

三ノ宮駅 開業 (現在の元町駅付近)

1931年(昭和6年)

三ノ宮駅が現在の場所へ移転

1934年(昭和9年)

元町駅 開業 (現在の場所)

1936年(昭和11年)

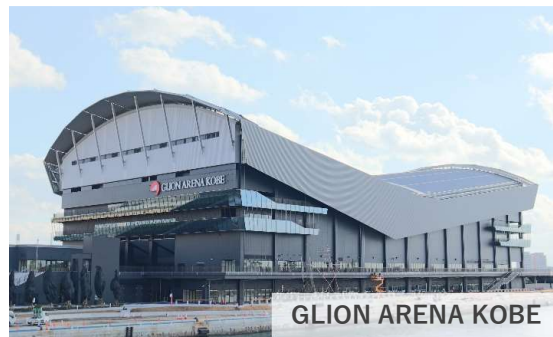
阪神 元町駅 開業

1946(昭和21)年頃の元町駅 (写真提供：芦屋市立美術館)



元町駅（都心エリアの中心に位置）

BE KOBE



変わる都心

BE KOBE

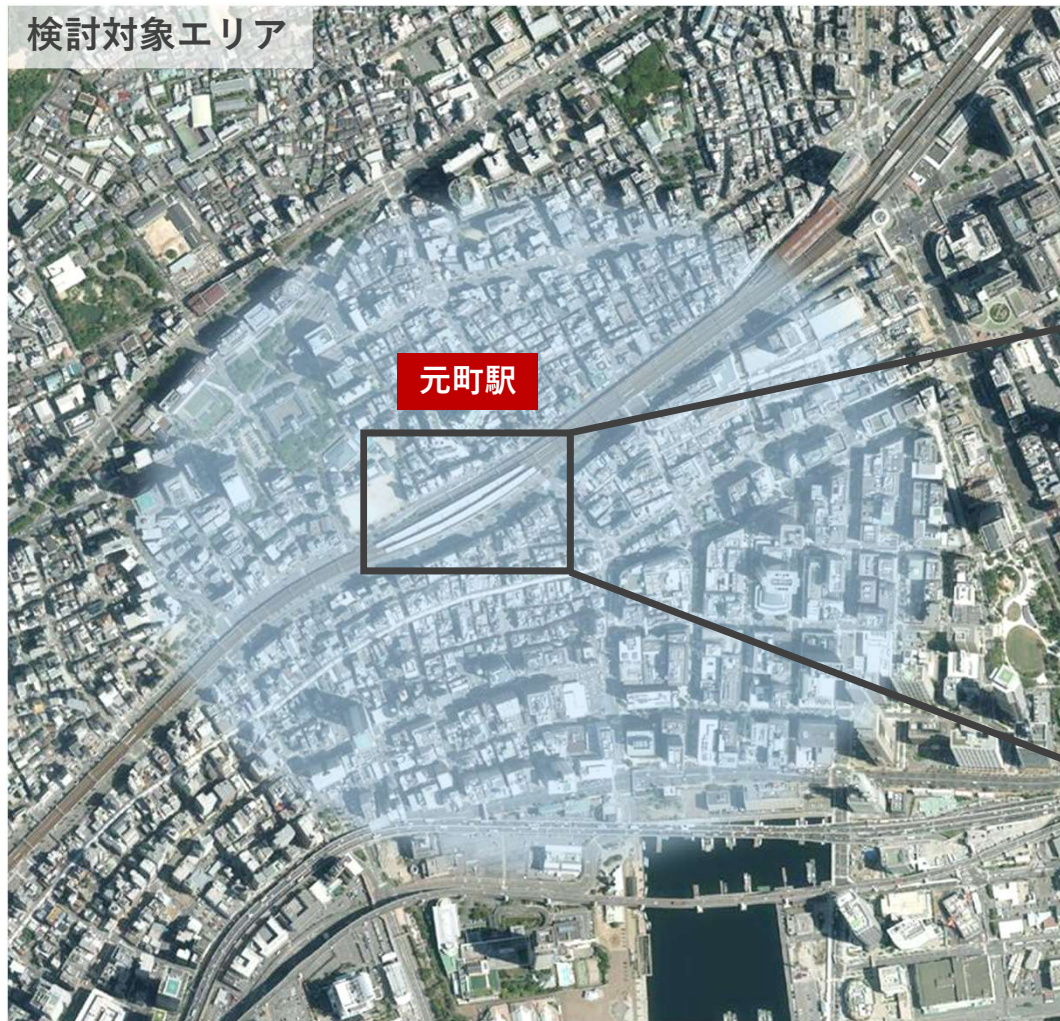
- 2015年 9 月 ● 神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン] 策定
- 2021年 4 ～10月 ● 神戸三宮阪急ビル・サンキタ通り・サンキタ広場
供用開始
- 2022年 8 月 ● 市役所 2 号館再整備事業者 選定
- 2023年 7 月 ● 新バスターミナル (Ⅰ期ビル)新築工事 着手
- 2024年 3 月 ● JR三ノ宮新駅ビル 起工式
- 2025年 1 月 ● 三宮駅周辺歩行者デッキ工事 着手
- 2025年 4 月 ● ジーライオンアリーナ神戸 開業
- 2025年 6 月 ● **元町駅周辺のリニューアル検討 着手**



公共空間の再整備に向けたプランの検討

BE KOBE

検討対象エリア



(主な課題)

- 駅とまちのつながりが不足
- バリアフリー化への対応



- 利用頻度の低いロータリー
- にぎわいに欠ける歩行者空間 など

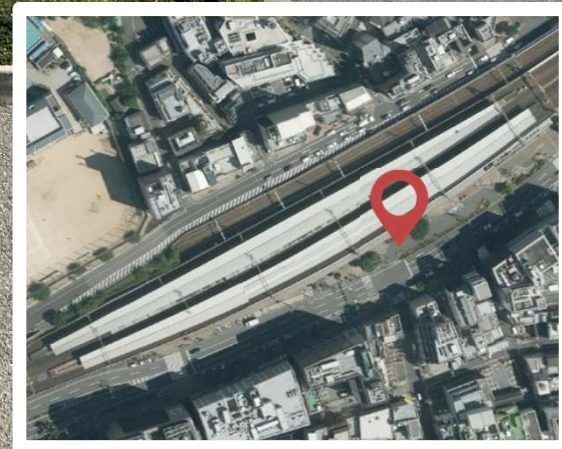
JR 東口：JR西日本がバリアフリー化を決定



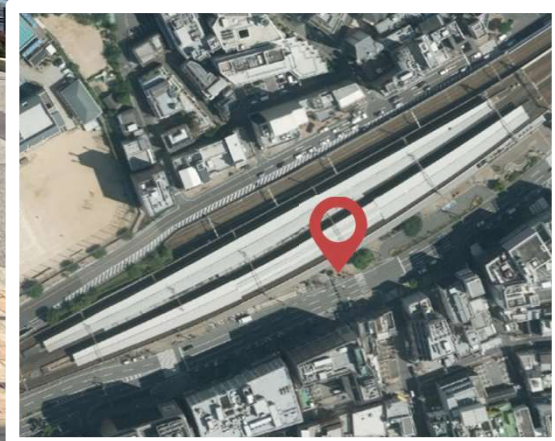
周辺への回遊性向上



ロータリーのあり方検討



にぎわいのある歩行者空間へ



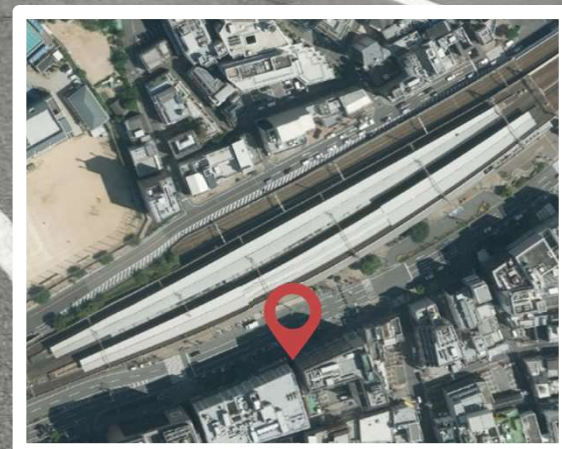
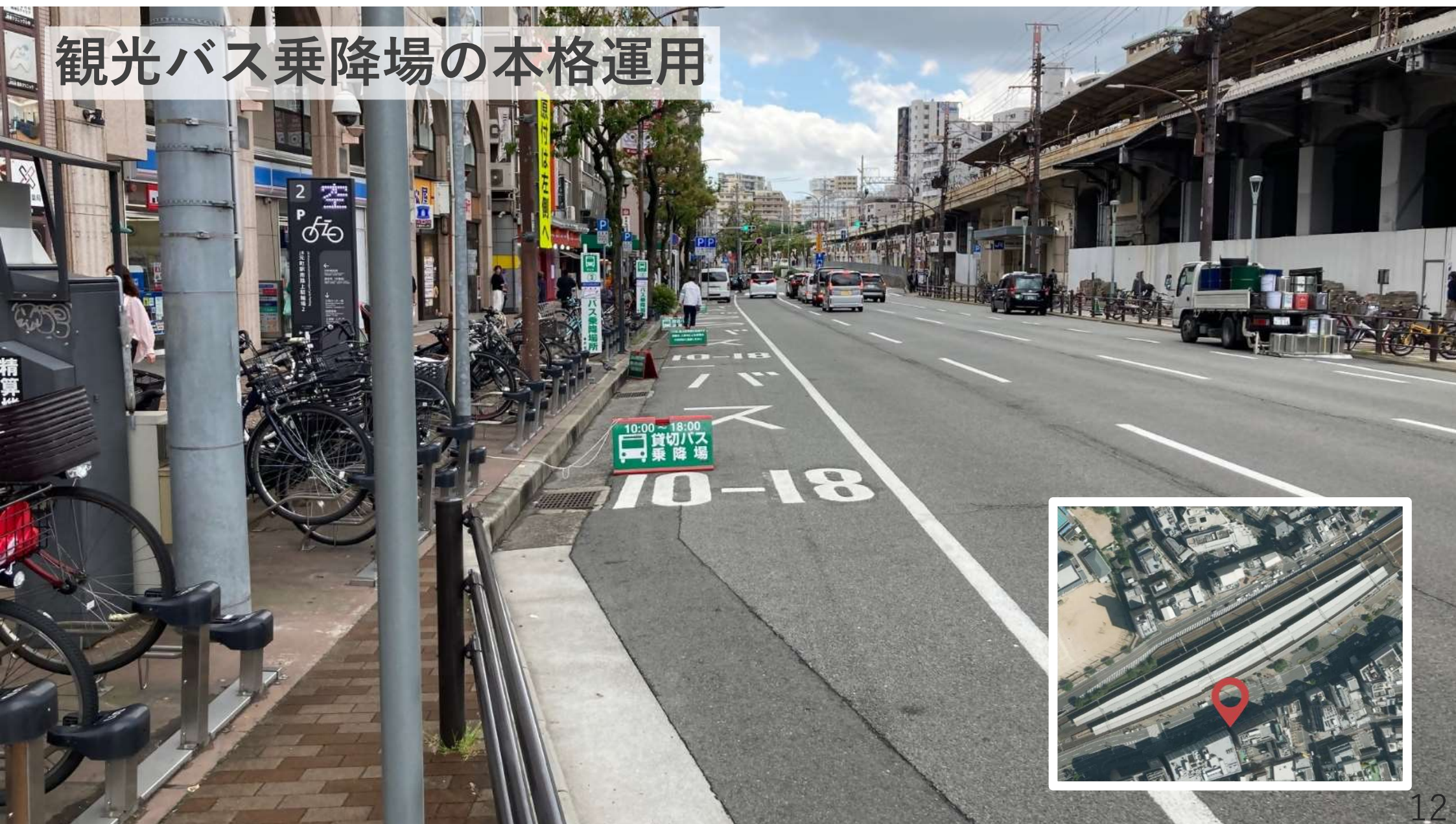
需要に応じた駐輪場へ



JR 西口 ～ 北側へのバリアフリー化



観光バス乗降場の本格運用



検討の進め方

BE KOBE

ワーキンググループで検討

- ・ 都心における位置づけ
- ・ 果たすべき役割
- ・ 目指すべきまちづくりの方向性
- ・ 高架下空間と広場との一体性 など検討

検討した意見を踏まえ
リニューアルプランを策定

JR各箇所の整備に合わせ
公共空間の設計・工事に着手



[ワーキンググループ (事務局：神戸市)]

地元まちづくり団体、学識経験者

※ オブザーバー参加：JR西日本、阪神電鉄、兵庫県

スケジュール

2025年夏頃～

ワークショップ開催

2026年 秋頃

リニューアルプラン素案 策定

2026年度末頃

リニューアルプラン 策定

2027年度以降

順次設計・工事に着手

JR西日本の工事と連携